



IMSUT・AMAMI SYMPOSIUM 2026

Planetary Healthで拓く未来

— 奄美から世界へ —

2026年度 東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム

DATE 2026年10月28日（水）～31日（土）

VENUE 名瀬会場：アマホームPLAZA／古仁屋会場：きゅら島交流館（公民館）

2026 年度

東京大学医科学研究所

奄美シンポジウム

プログラム

2026 年 10 月 28 日（水）～10 月 31 日（土）

名瀬会場：アマホーム PLAZA（奄美市市民交流センター）

古仁屋会場：きゅら島交流館（公民館）

ご挨拶

東京大学医科学研究所では、奄美医科学研究施設を拠点として、感染症、モデル動物、ワクチン・治療薬・診断薬開発などの医科学研究を推進しています。奄美群島は、世界自然遺産に登録された豊かな自然環境を有するとともに、熱帯・亜熱帯環境を活かした医学・生命科学研究を展開できる国内でも希少な地域です。こうした地域特性を活かし、人の健康と自然環境・生態系とのつながりを総合的に捉える Planetary Health（プラネタリーヘルス）の視点も取り入れながら、感染症研究、モデル動物研究、MCM 事業、迅速診断技術の開発など、次世代医療につながる研究基盤の整備を進めています。

本シンポジウムでは、国内外の研究者が奄美に集い、最新の研究成果を共有するとともに、異分野融合による新たな研究ネットワークを構築することを目的としています。2026 年度は、「Planetary Health で拓く未来 ― 奄美から世界へ ―」をテーマに掲げ、感染症研究、モデル動物研究、ワクチン・治療薬開発、CRISPR 診断技術、自然環境研究など、多様な分野の研究者が一堂に会します。医科学と自然環境研究の連携を通じて、人・動物・環境を含む地球規模の健康課題を見据え、奄美から世界へ向けた新しい研究の展開と発信を目指します。さらに、本シンポジウムを通じて地域行政、医療機関、企業、研究機関との連携を深め、奄美地域の発展と日本の感染症対策・医療イノベーションへの貢献を目指します。

奄美医科学研究施設長 真下 知士

開催概要

名称	2026 年度東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム
会期	2026 年 10 月 28 日（水）～10 月 31 日（土）
会場	名瀬会場：アマホーム PLAZA（奄美市市民交流センター） 古仁屋会場：きゅら島交流館（公民館）
主催	東京大学医科学研究所
共催	東京大学国際高等研究所新世代感染症センター（UTOPIA）
協賛	株式会社夏目製作所、株式会社ニッポンジーン、ハムリー株式会社
後援	東京大学大気海洋研究所、鹿児島県大島支庁、鹿児島県奄美市、鹿児島県大島郡瀬戸内町
実行委員会	真下 知士（東京大学医科学研究所） 川合 覚（東京大学医科学研究所） 案浦 健（東京大学医科学研究所） 石田 紗恵子（東京大学医科学研究所） 宮崎 かや（東京大学医科学研究所） 石井 健（東京大学医科学研究所） 反町 典子（東京大学大学院理学系研究科） 井上 純一郎（東京大学国際高等研究所新世代感染症センター）

お問い合わせ先

奄美医科学研究シンポジウム事務局（東京大学医科学研究所）

Web : <https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/amami/symposium2026/index.html>

Mail : alia_sympo-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

東京大学医科学研究所奄美医科学研究施設

住所：〒894-1531 鹿児島県大島郡瀬戸内町手安 802, TEL:0997-72-0373

日程表

10月28日（水） 2026年度東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム 1日目

名瀬会場

オープニングセッション	16:00～17:30	アマホーム PLAZA
情報交換会	19:00～21:00	名瀬市内 むちゃかな

10月29日（木） 2026年度東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム 2日目

名瀬会場

セッション 1	09:20～10:40	アマホーム PLAZA
セッション 2	10:50～12:30	同上
昼食	12:30～13:30	
ポスターセッション	13:30～14:30	マチナカギャラリー
セッション 3	15:00～16:40	アマホーム PLAZA
特別講演	17:00～18:00	同上
意見交換会	19:00～21:00	奄美観光ホテル

10月30日（金） 2026年度東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム 3日目

古仁屋会場

移動	09:30～11:30	名瀬→古仁屋
セッション 4	14:00～15:40	きゅら島交流館
セッション 5	16:00～17:00	同上
懇談会	18:00～20:00	瀬戸内町コワーキングスペース hub

10月31日（土） 2026年度東京大学医科学研究所・奄美シンポジウム 4日目

施設内覧会	09:30～11:00	奄美医科学研究施設
解散・貸し切りバス出発	11:00～	古仁屋→奄美空港

参加者の皆様へ

講演者へのご案内

- ・ ベルで進行をお知らせします。
 - 1 鈴 発表終了 3 分前
 - 2 鈴 発表終了
- ・ 発表データはそれぞれの会場下記の場所にお持ちください。
名瀬会場：1F マチナカホール前方左側（会場のご案内参照）
古仁屋会場：きゅら島交流館（公民館）2 階受付（会場写真参照）
- ・ 各セッションの 15 分前までに動作確認を行ってください。込み合うことも予想されますのでお早めに確認をお願いします。
- ・ ご自身で演台上のコンピューターを操作していただきます。

＜PC をお持ち込みの場合＞

- ・ HDMI（タイプ A）によって接続いたしますので、必要に応じて付属品をご持参ください。
- ・ 電源ケーブルは必ずお持ちください。念のため、バッテリーに十分な充電を行った状態でお持ちください。
- ・ スクリーンセーバーやスリープモード等は事前に解除していただくようお願いします。
- ・ 万が一映らない場合に備え、発表データを保存した USB フラッシュドライブをご持参ください。

＜データをご持参の場合＞

- ・ Windows で作成した PowerPoint データのみ受付可能です。Macintosh で作成したデータ、また動画や音声データ等が含まれる場合は、ご自身の PC をご利用ください。
- ・ データは USB フラッシュドライブ（タイプ A コネクタ）に保存してご持参ください。
- ・ 「発表者ツール」は使用できません。
- ・ データは事前の動作確認、ウイルスチェックを必ず行ってください。
- ・ お預かりしたデータは本シンポジウム終了後、事務局が責任をもって消去致します。

ポスター発表者へのご案内

- ・ 掲示会場は 2F マチナカギャラリーです。
- ・ 準備されたポスターを所定の番号位置に各自でご掲示ください。演題番号は要旨集をご参照ください。
- ・ ポスター発表は座長等設けておりませんが、活発な議論をお願いいたします。
- ・ 撤収は各日ポスターセッション終了後、速やかに各自で行ってください。
- ・ ポスター賞も設けております。

会場のご案内

<シンポジウム>

名瀬会場：アマホーム PLAZA（奄美市市民交流センター）

古仁屋会場：きゅら島交流館（公民館）

<情報交換会>

名瀬市内 むちゃかな（鹿児島県奄美市名瀬金久町 4-18 ASJ ビル 1F）

<意見交換会>

奄美観光ホテル（鹿児島県奄美市名瀬港町 2-10）

<懇談会>

瀬戸内町コワーキングスペース hub（鹿児島県大島郡瀬戸内町大字古仁屋字船津 23）

10/30（金）名瀬から古仁屋の移動についてのご案内（要予約）

9:20 ホテルウエストコート奄美 I エントランスに集合

* 団体行動になりますので、時間を守っていただきますようご協力をお願いします。

9:30 ホテルウエストコート奄美 I 出発

10:30-11:00 「奄美大島世界遺産センター（マングローブパーク）」にて休憩

11:30 ライバストイン奄美（本館）にて全員降車

13:20 ライバストイン奄美（本館）出発

13:30 「きゅら島交流館」へ到着

13:30～ 開場

10/31（土）奄美医科学研究施設見学についてのご案内（要予約）

9:10 送迎あり。ライブストイン奄美本館エントランスに集合し施設へ移動

*団体行動になりますので、時間を守っていただきますようご協力をお願いします。

*宿泊先から徒歩で行かれても構いません 15 分～20 分ほどになります。

9:30 奄美医科学研究施設見学

11:00 解散

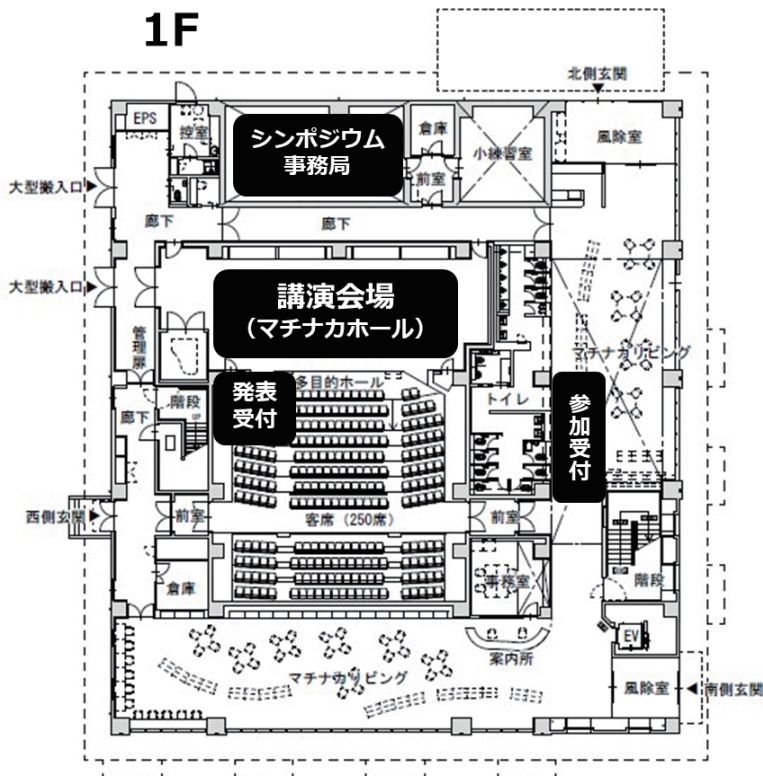
10/31（土）古仁屋から奄美空港への、貸し切りバスのご案内（要予約）

11:00 奄美医科学研究施設出発

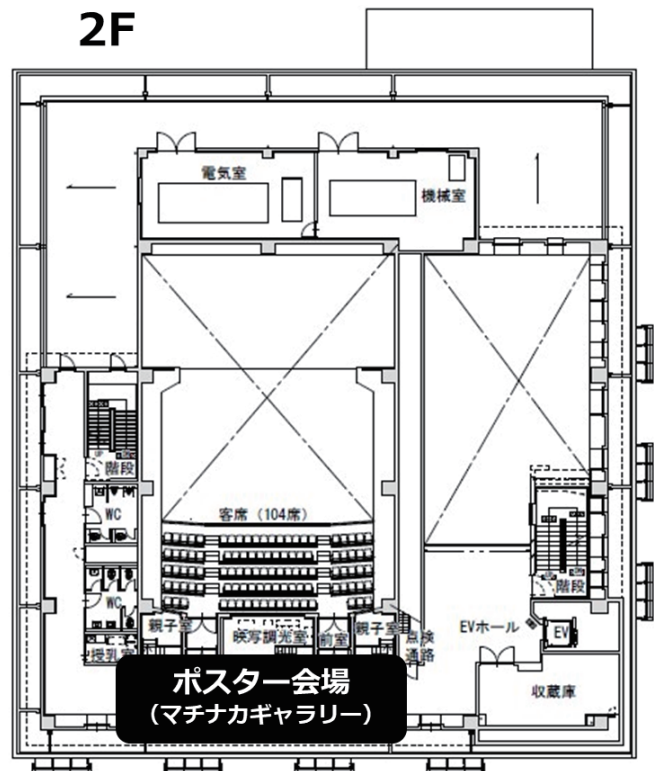
会場図

名瀬会場：アマホーム PLAZA

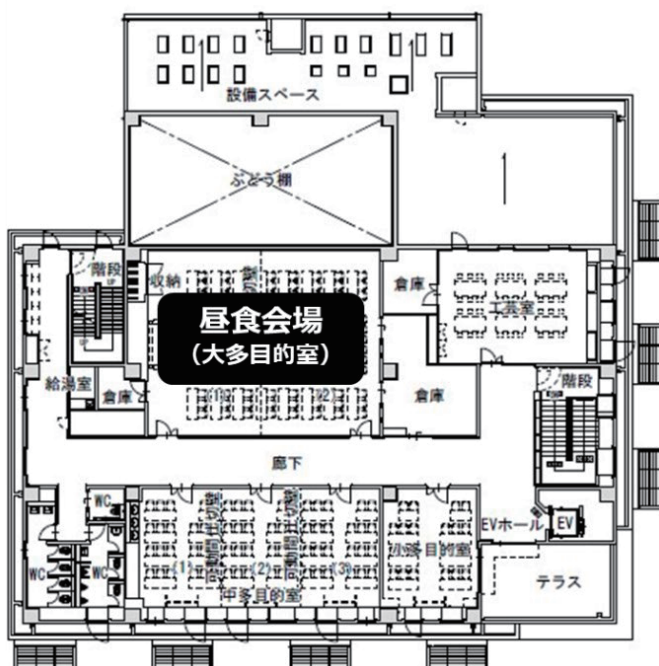
1F



2F



3F



古仁屋会場：きゅら島交流館



プログラム

第1日目 10月28日(水)

名瀬会場 (アマホーム PLAZA)

15:30～ 開場

オープニングセッション「奄美地方の研究と医療」

座長：石田 紗恵子（東京大学医科学研究所）

16:00～16:10 開会挨拶 真下 知士

16:10～16:30 **東大医科研奄美医科学研究施設の2026年近況報告**
川合 寛（東京大学医科学研究所）

16:30～16:50 **鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室の活動と、奄美の吸血昆虫**
大塚 靖（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

16:50～17:10 **奄美大島における世界遺産管理の現状**
広野 行男（環境省・奄美群島国立公園管理事務所）

17:10～17:30 **奄美における医療の現状と展望**
～奄美大島ワンきゃヘルスをゆらおうディ！～
森田 喜紀（鹿児島県立大島病院総合診療科）

情報交換会

19:00～21:00 場所：名瀬市内 （むちゃかな）

第2日目 10月29日(木)

名瀬会場 (アマホーム PLAZA)

09:00～ 開場

セッション1 モデル動物セッション「非ヒト霊長類モデルを用いた研究を語る」

座長：佐々木 えりか (公益財団法人実中研)

09:20～09:40 **CG イムノクロマトキット (Dual Checker) を活用した非侵襲的なコモンマーモセット性周期管理**

岸本 恵子 (公益財団法人実中研)

09:40～10:00 **脆弱 X 症候群モデルマーモセットの開発**

饗場 篤 (東京大学大学院医学系研究科)

10:00～10:20 **リスザルを用いたマラリアのワクチン開発**

水上 修作 (長崎大学熱帯医学研究所)

10:20～10:40 **AMED 石井班における非ヒト霊長類を用いたワクチン研究支援—施設間連携と SOP 標準化に向けた取り組み—**

仲山 美沙子 (東京大学医科学研究所)

10:40～10:50 休憩

セッション2 SCARDA ワクモダセッション「感染症ワクチン・治療薬を作る」

座長：Cevayir Coban（東京大学医科学研究所）

- 10:50～11:10 **サルベコウイルスの進化と系統地理**
川久保 修佑（東京大学医科学研究所）
- 11:10～11:30 **転写因子／転写システムの特異性を標的とした抗マラリア薬の開発**
根岸 英雄（東京大学医科学研究所）
- 11:30～11:50 **クリミアコンゴ出血熱**
Fatihan Pinarlik（東京大学医科学研究所）
- 11:50～12:10 **なぜ IgG 抗体は長期に維持されるのか：IgG1 型 B 細胞が骨髄長寿命形質細胞を優先的に形成する分子機構**
小池 拓矢（東京大学国際高等研究所新世代感染症センター）
- 12:10～12:30 **ユニバーサル T 細胞エピトープ搭載型 mRNA ワクチンプラットフォームの開発**
松村 隆之（国立健康危機管理研究機構）
- 12:30～13:30 昼食

ポスターセッション

- 13:30～14:30 **ポスター発表（マチナカギャラリー）**
奇数番号（13:30–14:00） 偶数番号（14:00–14:30）
- 14:30～15:00 休憩

セッション3 UTOPIA・BINDSセッション「感染症治療薬・診断薬を作る」

座長：善光 龍哉（日本医療研究開発機構）

- 15:00～15:20 **新興 RNA ウイルスに即応できる診断プラットフォーム CONAN-SWIFT**
中村 惇（東京大学医科学研究所）
- 15:20～15:40 **宿主因子を標的とした抗インフルエンザウイルス薬の開発研究**
植木 紘史（東京大学国際高等研究所新世代感染症センター）
- 15:40～16:00 **新興ウイルスに対するモダリティ選択創薬**
渡土 幸一（国立健康危機管理研究機構）
- 16:00～16:20 **感染症治療薬・診断薬開発を加速する研究支援と事業間連携 ― 支援からイノベーションへ ―**
井上 豪（大阪大学大学院薬学研究科）
- 16:20～16:40 **AMED-BINDS における感染症創薬プラットフォームと国際連携に向けた取り組み**
前仲 勝実（北海道大学大学院薬学研究院創薬科学部門）
- 16:40～17:00 休憩

特別講演「パンデミック対策基盤体制の構築」

座長：真下 知士（東京大学医科学研究所）

- 17:00～17:20 **UTOPIA におけるパンデミック対策基盤体制**
井上 純一郎（東京大学国際高等研究所新世代感染症センター）
- 17:20～17:40 **医科学研究所・国際ワクチンデザインセンターの SCARDA での活動**
石井 健（東京大学医科学研究所）
- 17:40～18:00 **BINDS 創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム**
反町 典子（東京大学大学院理学系研究科）

意見交換会

19:00～21:00 場所：奄美観光ホテル

第3日目 10月30日(金)

古仁屋シンポジウム(会場: きゅら島交流館)

13:30～ 開場

セッション4 奄美・自然・感染症セッション「輸入感染症・蚊媒介性感染症を語る」

座長: 案浦 健 (JIHS 国立感染症研究所 / 東京大学医科学研究所)

- 14:00～14:20 **近年の沖縄島・奄美大島における広東住血線虫の中間宿主探索**
菊池 隼人 (鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)
- 14:20～14:40 **CONAN 法を活用した環境水および下水中の健康関連微生物の迅速検出**
鳥居 将太郎 (東京大学大学院工学研究科)
- 14:40～15:00 **奄美施設の特性を活かしたマラリア研究-新世界ザルを用いた感染モデルの構築-**
関澤 秀斗 (JIHS 国立感染症研究所)
- 15:00～15:20 **節足動物ベクターの集団遺伝学**
糸川 健太郎 (国立健康危機管理研究機構)
- 15:20～15:40 **新興・再興感染症に対するワクチン開発**
浦木 隆太 (東京大学国際高等研究所新世代感染症センター)
- 15:40～16:00 休憩

セッション5 医科研セッション「奄美大島で免疫学最先端研究を語る」

座長：真下 知士（東京大学医科学研究所）

16:00～16:20 **Development of mucosal vaccine adjuvants for induction of broad-reactive, high-affinity IgA**

Gao Peng（東京大学定量生命科学研究所）

16:20～16:40 **リボソーム動態を感知する翻訳品質管理の分子機構と生理機能**

稲田 利文（東京大学医科学研究所）

16:40～17:00 **クロマチンによる細胞機能制御**

胡桃坂 仁志（東京大学定量生命科学研究所）

懇談会

18:00～20:00 場所：瀬戸内町コワーキングスペース hub

第4日目 10月31日（土）

奄美医科学研究施設

09:30～11:00 奄美医科学研究施設内覧会

11:00～ 解散

（＊11:00 出発 古仁屋から奄美空港、貸し切りバス）

ポスター発表要旨

◆10月29日（木）ポスターセッション

番号	タイトル	発表者
P-1	媒介昆虫体内におけるキネトプラスト類原虫の接着の分子機構とその役割	梁瀬 隆二
P-2	Microbial Dysbiosis Fuels STING-Driven Autoinflammation Through Cyclic Dinucleotides	BURCU TEMIZOZ
P-3	コモンマーモセットの血液検査基準範囲の再評価	向笠圭亮
P-4	コモンマーモセットにおける新規発生工学技術・自家移植法の開発	阿部由希子
P-5	異なる飼育ケージ使用年代に出生したコモンマーモセットの12か月齢体重の比較	富樫充良
P-6	Efficient gene disruption with CRISPR-Cas3 in human T cells	大保 翼
P-7	The role of TBK1 in B cells in the maintenance of chronic germinal centers at steady-state and during systemic infection	Mariana Silva Almeida
P-8	ヌクレオサイトーシス：免疫細胞による死細胞核 DNA の奪取を介した新規 cGAS-STING 活性化機構	和田 雄佑
P-9	マラリア感染による発熱メカニズムの解明	松森宏明
P-10	The role of interferon gamma induced GTPases in experimental murine cutaneous leishmaniasis	猪倉彼方
P-11	マラリア原虫の発育ステージ特異的な分子基盤の解明：ヒストン修飾酵素阻害剤ライブラリーを用いた解析	関澤秀斗
P-12	手術支援ロボットを用いた部屋分離型小動物実験プラットフォームの構築	菊西啓雄